

SSM (社会階層と社会移動) 調査データのコウホート分析

中村 隆

SSM (社会階層と社会移動) 調査データをベイズ型コウホートモデルを用いて分析した結果について報告した。SSM 調査は、日本社会の階層構造と成員の社会移動を調査する目的で1955年(昭和30年)に第1次調査が実施され、以後10年毎に1965年、1975年、1985年と継続調査されている。調査間隔が10年、年齢区分幅が5歳のコウホート表データが得られるので、コウホート分析にあたっては若干工夫が必要であった。分析対象とした項目は、職業、学歴、未既婚の別、階層帰属意識、階級帰属意識、政党支持、仕事の満足感、県間移動率である。ディスプレイ上にデータと分析結果を表示しながら解説した。

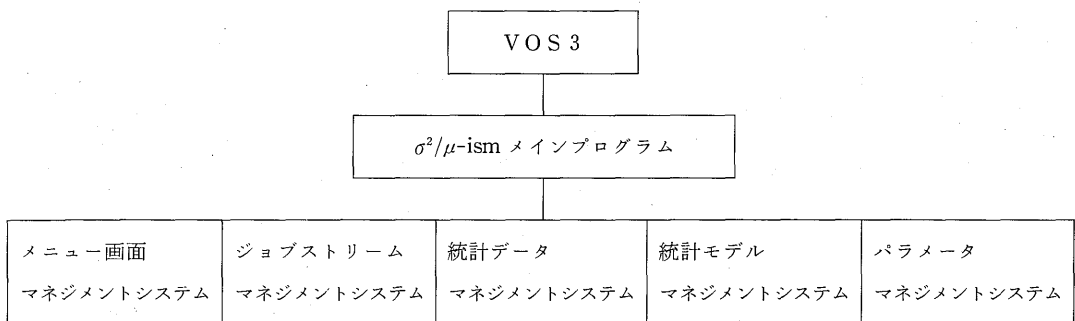
統計解析ソフトウェア運用システムについて

田村 義保

計算機で統計解析を行う時、優れた解析プログラムが必要であることは言うまでもないことであるが、そのプログラムがどれだけ使い易いかも重要になってくる。マイクロコンピュータ用のソフトウェアの中には、ユーザインターフェースの良いものもあるようだが、大型計算機用のソフトウェアは市販されているものも含めて、ユーザにかなりの負担をかけるような形になっている。すなわち、JCL(ジョブ制御文)というやっかいなものを常に意識し、書いていかねばならない。これは、普通のユーザには、かなりの苦痛であり、計算機嫌いを生む原因になっているものと思われる。

そこで、大型計算機用に本研究所で開発された最新の統計解析用ソフトウェアを使い易い形にまとめ、システム化することを目指して、本プロジェクトが立案された。プロジェクトのメンバーは、大隅昇氏、石黒真木夫氏、中村隆氏、桂康一氏と田村の5名である。

システム構成は下図のようになる。



また、概略は次のようなものである。

- (1) 目的の統計手法をメニューより選び、ガイド(メニュー)に従って操作して行くだけで、計算を実際に行うために必要な JCL をシステムが作成する。
- (2) 必要事項を、規則に従ってプログラム中のコメント文に書き込んだ統計解析ソフトウェアを新規にシステムに含めることができる。すなわち、今後開発される統計解析プログラムを整備するためにも役に立つ。
- (3) 統計データ解析で必要とされる複数ステップの統計処理を設定しやすいように、データ形式の変換機能を有している。
- (4) 将来、統計エキスパートシステムを作る時の参考にするために、詳しい計算記録(ロギング)を